

アンケート集計結果より

横浜市史資料室では、昨年の夏展示会と展示関連上映会を企画・開催しました。ここでは、会場で実施しましたアンケートの集計結果と内容の報告、また皆さまからお寄せいただいた感想・ご意見などの一部を紹介いたします。

〔平成二六年度展示会〕

横浜市広報ポスターにみる昭和四〇年代

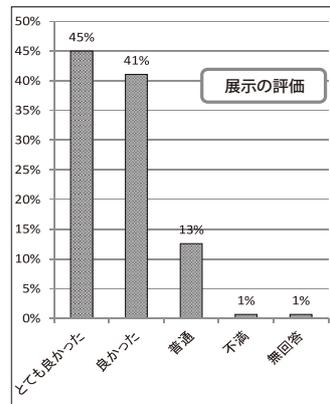
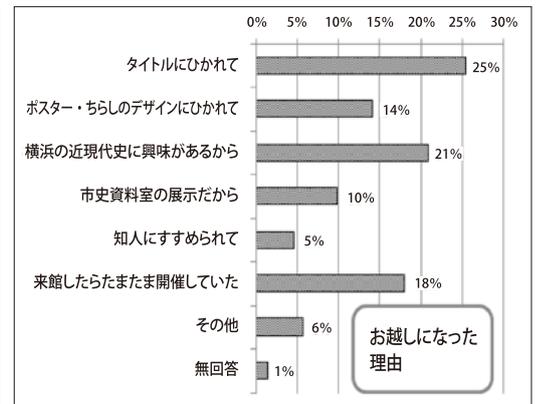
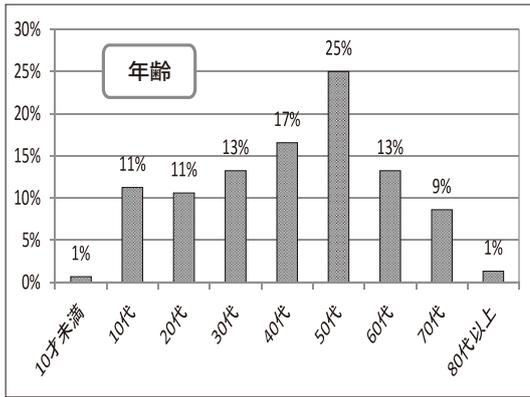
協力 横浜市市民局広報課・横浜市中
央図書館

平成二六年七月二三日（水）～九月
五日（月）

横浜市史資料室が所蔵する広報ポ
スター『市民広報』約三〇点と関連す
る写真五〇点等により昭和四〇年代の横
浜を紹介。

担当 百瀬 敏夫

・入場者四〇一名回答者数一五一名
・男性七五％女性二二％無回答三％



・見学者層は五〇代が二五％、次いで
四〇代一七％三〇代、六〇代の一三％
でした。

・見学に来られた動機は、「タイトル
にひかれて」二五％、「横浜の近現代
史に興味があるから」二二％、中央図
書館来館中に「たまたま開催されてい
た」一八％でした

・展示の評価は「とても良かった」四
五％、「良かった」四一％が多く好評
だったことがわかります。

〈展示の感想より〉
・昔のポスターは色数が少なく、内容

がよく伝わってくる。一見しただけで
理解できるものが多いと感じた。（四
〇代・神奈川区）

・過去のポスターは迫力があるものが
多く驚いた。（二〇代・神奈川区）

・壁にある一つ一つに見入ってしまっ
た。とても楽しかった。（一〇代・神
奈川区）

・自分が生まれた年前後のものをなつ
かしくおもった。その時代がわかると
ても貴重な資料として展示を見た。

（四〇代・鶴見区）

・ポスターからその時代背景が見えて
面白かった。（三〇代中区）

・ここ一か所で大都市横浜の流れの大
筋が理解できた。（一六〇代・神奈川区）

・横浜というまちづくり（昭和時代）
に感動した。（四〇代・金沢区）

・書籍でもない、公文書でもないけれ
ど歴史資料と呼ぶべきものはたくさん
あることがわかった。（五〇代・神奈
川区）

・レトロ・モダンなポスターに思わず、
懐かしさがこみあげてくるだけでなく、
昭和四〇年代（高度成長期）の市政の
直接的な熱気が伝わってくる。ある意
味、今後の人口減・高齢化の中で「伝
える」ことの原点を感じる。ネット社
会に一石を投じる企画だった。（五〇
代・港北区）

・公共インフラ（下水道など）や公害
対策、ゴミ問題など、昔の現実を思い
出して改善に何十年もかかることを実
感した。（六〇代・中区）

・今の横浜から想像できない諸問題が
あったこと、そしてそれらを解決して
いくなかで、今の横浜があるのだと思
うと感慨深いものがある。（六〇代・
戸塚区）

・もっともつと若い人（中高生）にみ
てほしい。（四〇代・西区）

〈特に興味をもった資料〉

・昭和四〇年代の写真（同様八件）

・「六大事業」（同様二件）

・横浜五大戦争（同様三件）

・「ふくれあがる横浜市」（同様三件）

ほかの大都市に比べて、あれほど一
気に人口が増加したということを知ら
なかった。（二〇代・神奈川区）

・「大掃除はお早めに」
昭和四〇年代ごみ問題が大きなもの
であることに驚いた。（二〇代・横浜
市）

・「明日の横浜を話し合う区民の集い」
大木の周りに人々が囲んで座ってい
る構図に、当時の市民参加が活発な空
気を感じた。（二〇代・神奈川区）

・「全国一斉ねずみ退治」（同様三件）
・飛鳥田一雄さんの姿（同様四件）

ポスターの言葉ひとつひとつ「水
道管のハレット」「ねずみ捕獲で粗品」
「敬老バッチ」など面白かった。（二
〇代・中区）

全体的にインターネットがない時代
に啓蒙・啓発・伝播手段として、市広
報が役割をになっていたことが感じら
れた。（四〇代・神奈川区）

〈ご意見・ご要望〉

開架資料紹介

『広報よこはま』

第二次大戦後、占領政策によって行政と市民との間の情報は、「上意下達」から市民が参加して相互方向の情報共有に変わっていった。これが、広い意味の「広報」であり、市民の意見等を聞く「広聴」と、市民に情報を伝える狭い意味の「広報」である。

このうち、情報を伝える広報手段として、昭和二〇年代に発行されはじめ、現在まで続いているものに『広報よこはま』がある。

この『広報よこはま』は、一九四九（昭和二四）年三月に『横浜弘報』として始まり、五三（昭和二八）年には、タブロイド判二ページの『弘報よこはま』となった。五五（昭和三〇）年八月七八号からは『広報よこはま』となり現在まで続いている。

当初は、弘報委員会や学校や市会議員等への配付であったが、五六（昭和三一）年度からは全世帯配付となり、市民に直接届く広報紙となった。

行政の仕事・役割は、それぞれの時代のさまざまな問題に対応することであるので、この『広報よこはま』に掲載されている横浜市の「お知らせ」は、それらの行政の仕事を反映したものであり、横浜市の行政から見たそれぞれの時代を知るための興味深い資料と言える。



『広報よこはま』第203号1966年1月（写真は原本）

たとえば、資料室においてプリント製本を作成している最終年度は一九八八年度となるが、横浜博覧会を直前に控えて、各区におけるさまざまな行事を伝えている。四七六号（一九八八年一〇月）は、「あと半年で横浜博」という見出しで横浜博を紹介している。また、四七九号（一九八九年一月）のかなかわ区版では、同年夏に開業予定の金沢シーサイドラインを紹介する。

市史資料室では、一九四九年の『横浜弘報』から一九八八（昭和六三）年度まで、若干の欠号はあるが、複製（マイクロフィルムからのプリント）を製本して開架している。

（百瀬敏夫）

《市史資料室たより》

【横浜市史資料室内ミニ展示】

「戦後70年 戦争を知る
—横浜空襲と戦災関連資料から—

会期：4月中旬～7月中旬
時間：午前9時30分～午後5時
会場：横浜市中央図書館地下1F
横浜市史資料室展示コーナー
◎入場無料 ※会期中一部入替あり
内容：横浜における戦時下の生活と戦争の実態に関わる資料を展示します。

予告【平成27年度展示会】

「戦後70年 戦争を知る、伝える
横浜の戦争と戦後Ⅱ」(仮)

会期：7月18日(土)～9月23日(水)
会場：横浜市中央図書館地下1F ホワイエ
*横浜市史資料室展示コーナーにて「ヨコハマ3万年の交流」関連展示を開催予定です。ご期待下さい。

【『横浜市史資料室紀要』第5号発行】

〈目次〉回想のヨコハマ 米軍通訳となった在日日系米国人二世・小林直明・クリス氏に聞く／横浜の「関西村」について／昭和初期横浜市における、ある市場業者の卸売市場論／横浜の空襲に関する日米の記録／横浜市史資料室の活動記録／資料を寄贈していただいた方々 ※税込500円

【報告書『震災復興と大横浜の時代』発行】



報告書表紙

〈目次〉第1部 写真編 1.廃墟からの再生 2.バラックのある風景 3.変わりゆく街並み 4.震災復興事業 5.大横浜の旗のもとに／第2部 史料編 1.大横浜と第三次市域拡張 2.大横浜を支えた町村 3.大横浜の将来構想 4.第四次・第五次市域拡張／第3部 解説編 1.関東大震災と横浜 2.バラックの時代 3.横浜の復興都市計画 4.大横浜建設にむけて 5.大横浜のゆくえ ※税込500円
上記刊行物は、横浜市役所1階市民情報センター、横浜市中央図書館「ふれあいショップのげやま」、横浜開港資料館、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館で販売しています。

【寄贈資料】

1株式会社有隣堂様 ヤングクラス氏関係資料 3点

- 2白石 緑様 戦後横浜のスライド 3点
- 3東京大学大学院情報学環図書室様 STARS AND STRIPES 1945年11月～1952年6月 52冊
- 4小澤 恵一様 小澤恵一資料他 391件
- 5櫻井 達様 鳥居民『昭和20年 第一部8 横浜の壊滅』他 2点
- 6根本 政視様 平沼付近の航空写真 他 9点
- 7刈谷智加恵様 『私の神様』 1冊
- 8岸 幸示様 千人針 1点
- 9鶴見臨港鉄道株式会社様 絵はがき 5点
- 10長谷川研一様 郷土史関係ビデオフィルム 28点
- 11白石 緑様 小林直明資料追加 9点

【市内歴史関連8施設連携企画】

わがまち横浜再発見 「ヨコハマ3万年の交流」
会期：7月18日(土)～9月23日(水)
横浜市歴史博物館をメイン会場として、開港資料館、都市発展記念館等の8施設連携により横浜3万年の歴史をかつてないスケールで再現します。

◇ 休室日のご案内 ◇

4月20日(月)、5月7日(木)、
6月15日(月)～18日(木)